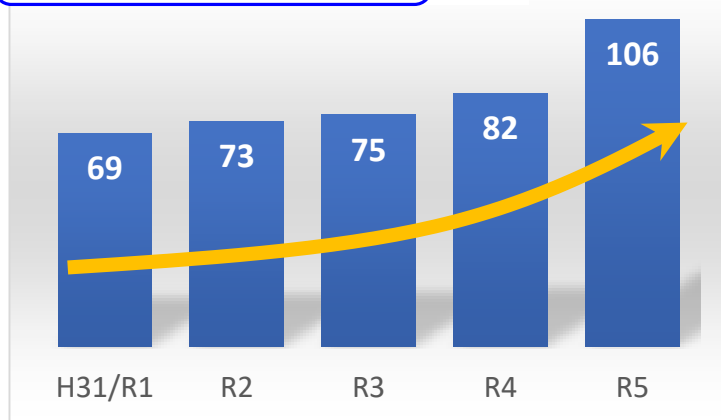


労働災害防止の取組事例を紹介します

休業4日以上
の災害発生状況
(社会福祉施設 富山県内)

新型コロナウイルス感染症による労働災害を除く。

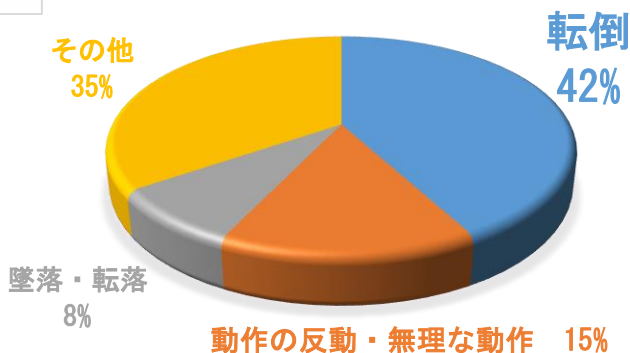


社会福祉施設における労働災害は、ここ5年間、**増加傾向にあります！**

事故型別災害発生割合
(社会福祉施設 富山県内 H31～R5)

発生頻度が高く注意が必要な労働災害は

- ① 転倒災害
 - ② 動作の反動による腰痛等
- です！



富山介護施設 + S a f e 協議会について

取組概要

労働災害の現状や構成員における取組等を共有するとともに、構成員の好取組を同業種に周知することなどにより、労働災害の減少を図っています。



令和6年度第1回協議会 (R6.10.4)の様子

構成員

- ・ 社会福祉法人おおさわの福祉会 特別養護老人ホームささづ苑
- ・ 社会福祉法人喜寿会 特別養護老人ホーム七美ことぶき苑
- ・ 特定医療法人財団五省会 介護老人保健施設みどり苑
- ・ 富山県厚生部 高年齢福祉課
- ・ 富山県老人福祉施設協議会

+ Safe協議会構成員の取組事例

事例1 社会福祉法人おおさわの福祉会 特別養護老人ホームささづ苑

事業概要

名称：特別養護老人ホーム ささづ苑
所在地：富山市下夕林141番地
開設：平成11年4月 入所者数定員：70名



取組の内容

腰痛予防対策



介助用機器・ロボットの導入

腰痛予防委員会の開催

- ・毎年3月末に年度計画を作成する（9月に中間進捗確認あり）
- ・2か月に1回集會し、その内容を各部署に持ち帰り、情報共有する
- ・3月に計画の取りまとめと次年度計画に向けた検討を行う

ICT（情報システム）の導入



DRIVEBOSS(送迎管理)

眠りスキャン(入所者睡眠管理)



ハナスト(音声入力ソフト)

このインカムで話した内容が、スマートフォンに文字記録されます

ICT委員会の開催

- ・毎月または2か月に1回集會し、各種ICTの導入状況や、今後導入したいシステムなどの内容を協議
- ・協議結果は各部署に持ち帰り、情報共有する

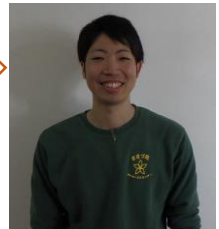
取組を行って

腰痛予防の取組

- ・どの職員でも一定水準以上の介助が可能になりました。
- ・また、介助作業に関する研修や教育に要する期間を短縮できました。
- ・入所者や介助者が介助時にケガをしてしまうかもしれない、という懸念を低減することができました。

ICT導入の取組

- ・ベテラン職員にしかできなかったデイサービスの送迎でのルート管理や配車管理といった業務が、雇用して日が浅い職員でも可能になりました。
- ・ハナスト（音声記録システム）により、業務報告書の作成時間を短縮できました。（1時間30分→5分程度）
- ・眠りスキャンの導入により、職員の見回り作業時の負担が減少するとともに、入所者の睡眠の妨げの防止といった快適な介助環境の提供にもつながりました。



通所介護部
加藤課長

+ Safe協議会構成員の取組事例

事例2 社会福祉法人喜寿会 特別養護老人ホーム七美ことぶき苑

事業概要

名称：特別養護老人ホーム七美ことぶき苑
 所在地：射水市七美891
 開設：平成5年 入所者数定員：特養90名 短期入所9名



取組の内容

腰痛予防対策



介助用機器の導入（デイサービスでも導入開始）

腰痛予防プロジェクト組織図



外部講師による職員講習

腰痛予防プロジェクト(YPJ)の運営

ICT（情報システム）の導入

サイボウズ Office

中央企業向けかんたんらくらくグループウェア



情報管理システムの導入
 （サイボウズオフィス）

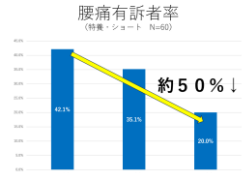


眠りスキャン
 （入所者睡眠管理）

各種取組の分析・評価



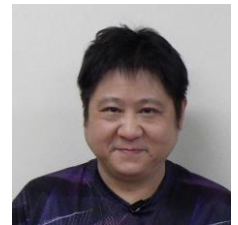
アセスメントシート



腰痛発生率の分析

取組を行って

- ・情報処理システムの導入により、情報管理・共有の効率化ができています。
- ・YPJの取組や介助用機器の利用を進めてから、腰痛災害の防止になり、省人化や介助サービス水準の向上にもつながっています。



YPJプロジェクトリーダー
 結城さん



介護職員 藤澤さん

72歳ですが、介助用リフトなどの機器を利用して、万全に介助作業を行うことができます。

介助用リフトなどを使用することで、妊娠中でも安全に利用者の介助を行うことができました。



介護職員 釣谷さん



施設利用者

以前は、介助する職員が辛そうに抱え上げていたので、トイレに行くことを遠慮していました。介助用機械が使われている今は、気兼ねなくお願い出来るようになりました。

+ Safe協議会構成員の取組事例

事例3 特定医療法人財団五省会 介護老人保健施設みどり苑

事業概要

名称：介護老人保健施設 みどり苑
 所在地：富山市秋ヶ島146-1
 開設：平成13年4月 入所者数定員：100名



取組の内容

腰痛予防対策



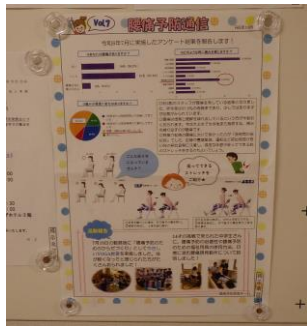
ヨガ教室(半年に1回開催)



ストレッチの張り紙



腰痛予防推進チーム(毎月)



腰痛予防通信の広報

スポーツ活動による労働者の健康づくり



フットサル部



マラソン部

各種省力機械・ICT設備の導入



HitomeQケアサポート
(入所者管理)

* R7年1月から全面導入予定



眠りスキャン
(入所者睡眠管理)



とろみサーバー
(入所者への飲料提供用)

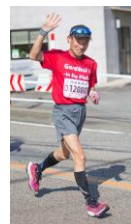
取組を行って

- ・ ヨガ教室に参加し、全身のストレッチや瞑想を行うことで、自分の心身をほぐし、良いリラックスとなりました。
- ・ 腰痛予防推進チームに参加することで、各種介護機器の使用方法に関する実践的な研修を受け、今後の仕事に役立てられそうです。



腰痛予防チーム
リハビリ担当 高田さん

- ・ 66歳の時に五省会のマラソン部に入り、それ以後運動習慣が身に付きました。
- ・ マラソン部の活動は毎週行っています。私も毎年富山マラソン(42.195km)に出場しており、運動意欲にもつながっています。



亀井施設長

富山マラソン 年代別部門
1位(2021,2022),2位(2023),3位(2024)